

「セ・ロム」はゲーテの人名をナポレオンにして「セ・ロム」(これぞ、人間だ!)と言わしめた伝説の言葉。
「エッセイの森」は面白く、有意義な読み物(木々)がたくさん集まり、森の如く知の緑を成す(SDGs)ことを意味する。

ジョークサロン会員／リレーエッセイ②

川柳で遊ぼう

落語「代書屋」の最初に「代書屋の儲

かった日も同じ顔」という川柳が出てきます。川柳は「5・7・5」の17文字しかなく、これで人生の泣き笑いを表現します。俳句とともに最少の文字数で作る定形詩です。いま川柳に熱中しています。もう15年ほど前になりますが、ラジオの川柳番組を聴いて、投稿を始めたのがきっかけです。そこで、このエッセイを書くことを機に、今まで見聞きした川柳の作り方を整理してみたいと思います。

「俳句」と「川柳」は同じ「5・7・5」すなわち「かみご」「なかしち」「しもご」の17文字です。それでは、違いは何でしょうか。まず、「俳句」は「自然を読む」ことで、「それは」「文語体」で表現します。そして、「季語」が必要で、「や」「や」「けり」などの「切れ字」を使います。これに対して、「川柳」は「人間」人情や生活や人の世など「を読む」事です。表現は「口語体」で表現し、それは普段の言葉で良いわけです。そして、「季語」は要らないと言うことで、それが大きな違いとなります。最後に「切れ字」は使わないと言うことです。まとめると「川柳」は暮らしの中で感じたことを自分の言葉で読めばいいと言うこととなります。

以上を踏まえて川柳作りのポイントは「5・7・5」のリズムに乗せることで

す。そのためには「字余り」「字足らず」にはしない事です。ただ、例外として「かみご」だけは字余りが許されています。字数を整えることが作句のおもしろみだと思っています。文字のうち促音の「っ」は一字に勘定し、拗音の「ゃ」「ゅ」「よ」等は一字に勘定しません。

あとはいろいろ選者の先生からの助言です。第一に「濁音」はできるだけ使わない。第二には「い」「抜き言葉はダメ」とのこと、例えば「笑っている」を「笑つてる」としないことです。第三には句は「5-7-5」と切らないことです。どうしても、「代書屋」儲かった日も同じ顔」と書きたいところですが、切らずに続けます。最後に「大事なのは発想で人とは違うものの見方が重要」ということとなります。

上記のとおり小生が熱中したNHK第1ラジオの番組は、かつて土曜日の午後にやっていた「ぼやき川柳」でした。当時は1時間番組組でお題が二つでした。聞いているうちに作って投稿するようになり、はまっていきました。当時は毎週だったと思いますので、お題を聞いて四句作り、水曜か木曜日ぐらい

にファックスで投稿していました。現在、その番組は「ラジオ深夜便」の第一・二・三金曜日午後11時25分から11時55分の30分となり、お題は一つとなりました。金曜日にお題を聞いて、締切り日の水曜日19時まで直接ファックスしています。その期間が短いので大変です。たまたま、自分の句が読まれると全身の血が騒ぎ、「よっしゃー」となります。何せ全国放送で北海道から九州・沖縄まで聞かれているからです。それは2022年(令和4年)1月からの成果を恥ずかしながら披露しましょう。

● 式場の絶滅危惧種お仲人

● 妻投げた茶碗を箸で打ち返す

● 妻の耳嘘発見器埋め込まれ

● 女房よ狭い見捨てとくれ

● 大根を切る出てくるか金太郎

● 妻の目が店の魚の目をにらみ

● 妻の鼻どんな秘密も嗅ぎ付ける

さらに10年ぶりに番組の秀作三句である「大賞」に輝いたのは、

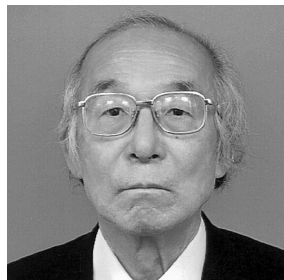
● 立ち呑みの両足先に酔っ払い

です。寝る時にぼつと発想したのを覚えていました。最初は「立ち呑みで足先に酔っ払い」でした。濁音をできるだけ使わないこととし、「で」を「の」に変え、「足」では字足らずなので「両足」として字数を整えました。当句はNHKの雑誌『ラジオ深夜便』2022年9月号に掲載されました。選者の大西先生の寸評では「若いころならともかく、立ち呑みも体力勝負、かなりしんどくなってきました。『両足先に酔っ払い』が巧い」と書かれています。この評には力をいただきました。

長くやっておればこの様な成果が出てきて、さらに頑張ろうとなります。読者の皆様もいかがですか。筆記具と紙があれば良く、今まで経験したことを思い浮かべながら、言葉を選んで「5・7・5」文字のリズムに乗せれば「川柳」ができます。良い趣味だと思えますが……。

著者プロフィール

お ひで だ そ
曾田 英夫



ジョークサロン快鳥昭和23年京都市生まれ、関西学院大学経済学部卒業。損害保険会社等に勤務後、令和元年より「鉄道運輸史研究家」を勝手に名乗っています。「鉄道史学会」会員。主著に『発掘! 明治初頭の列車時刻』(交通新聞社新書2016年)、『幻の時刻表』(光文社新書2005年、光文社知恵の森文庫2014年)、『列車名徹底大研究』(JTBマイロネBOOKS 2002年)、『時刻表昭和史探見』(JTBキャンブックス2001年)など多数。